令和元年度

生駒北中学校

学　校　評　価

生徒アンケート考察

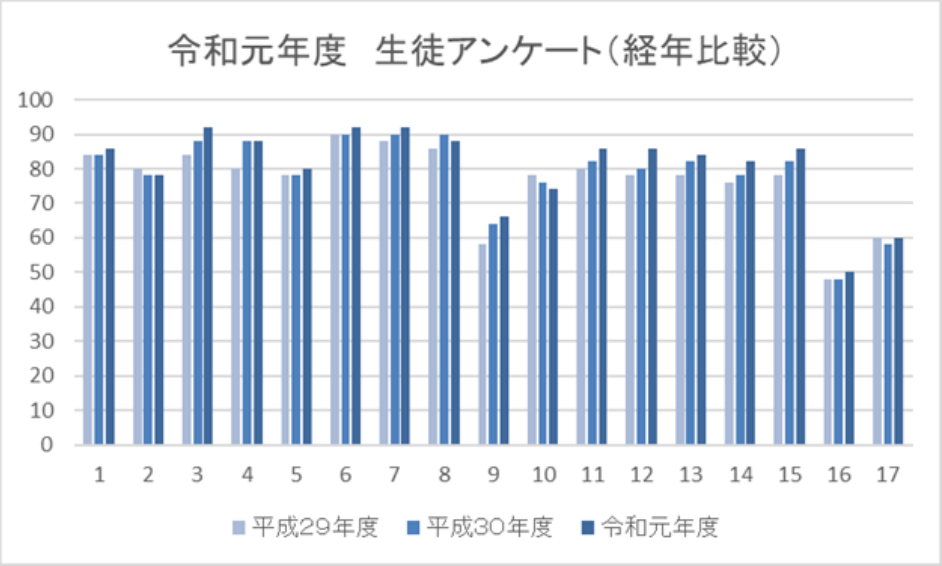
令和元年度　学習状況と生活状況の自己評価（生徒用）

・経年変化（H29～R1）の数値は、観点指標をそれぞれ　A：当てはまる（5点）　B：どちらかといえば当てはまる（4点）　C：どちらともいえない（3点）　D：あまり当てはまらない（2点）　E:当てはまらない（1点）とし、それぞれの観点項目の平均値を百分率で示しています。

No	観　点	学年比較			経年比較		
		1年	2年	3年	H29	H30	R1
1	あなたは、学校は楽しいですか。	90	86	82	84	84	86
2	あなたは、授業内容を理解できていますか。	78	78	78	80	78	78
3	あなたは、体験学習（茶筌づくり体験・職場体験・こども園との交流学習等）の時間が楽しいですか。	96	92	90	84	88	92
4	あなたには、自分の悩み等を相談できる友人がいますか。	90	90	86	80	88	88
5	あなたには、自分の悩み等を聞いてくれる先生がいますか。	80	84	76	78	78	80
6	あなたは、学校で命の大切さや人権について学ぶ機会がありましたか。	94	92	92	90	90	92
7	あなたは、学校で社会のルールや自己責任について学ぶ機会がありましたか。	92	92	90	88	90	92
8	あなたは、学校で将来の進路や生き方について考える時間がありましたか。	80	90	90	86	90	88
9	あなたは、授業中に進んで発表しましたか。	58	68	68	58	64	66
10	あなたは、家庭学習をしますか。	70	74	78	78	76	74
11	あなたは、部活動、生徒会活動または委員会活動に積極的に取り組んでいますか。	92	82	84	80	82	86
12	あなたは、学校行事に意欲的に参加していますか。	84	90	86	78	80	86
13	あなたは、誰に対してもよく挨拶をしていますか。	84	86	82	78	82	84
14	あなたは、清掃活動に熱心に取り組んでいましたか。	84	82	82	76	78	82
15	あなたは、安全面（防犯や災害）に気をつけて生活していますか。	88	86	84	78	82	86
16	あなたは、図書室を積極的に利用しましたか。	50	56	46	48	48	50
17	あなたは、読書をよくしましたか。	58	64	54	60	58	60

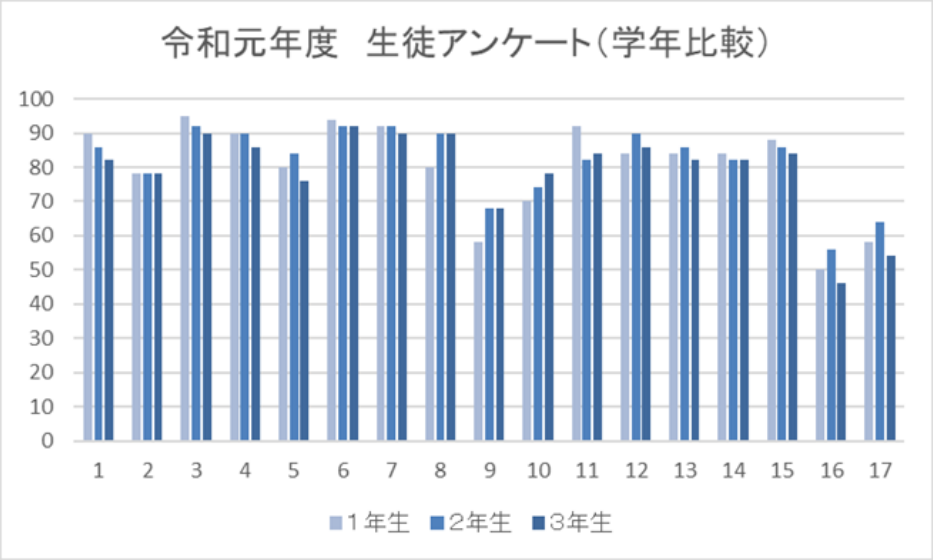
集計グラフから顕著に見て取れるのは、観点 16「あなたは、図書室を積極的に利用しますか。」と観点 17「あなたは、読書をよくしますか。」です。この 2 項目については共に下位という結果で、経年比較からも改善の兆しを見て取ることができない状況です。新校舎の図書室は、冷暖房完備、充分なスペースが確保され、また PC ルームに隣接しているなど環境的には申し分なく、蔵書数も 1 万 7 千冊を超えます。国語科では感想文課題や読書案内の作成に取り組み、図書館司

書先生の協力を得て図書館だよりの発行やビブリオバトルを実施するなどの他、総合的な学習の時間や各教科の授業において調べ学習やレポートの作成、プレゼンテーション準備、「学びタイム」の読書活動等で図書室を積極的に活用する活動を企てていますが、生徒個人が自主的に利用することは少ないといえます。新指導要領の教育内容の主な改善事項に「言語能力の確実な育成」が挙げられており、今後の図書室の活発な利用や読書活動の推進に向けて具体策を検討しているところです。



観点 9「あなたは、授業中は進んで発表しましたか。」では、年ごとに改善されているものの全体からみると依然低い状態です。今後も、教科学習においては ICT 機器を有効に活用しつつ、班活動による課題解決型の学習やディベート、プレゼンテーションなどに取り組み、言語活動の場を多く設定して表現力の伸長を図っていきたいと思います。

観点 6･7「あなたは、学校で命の大切さや人権について学ぶ機会がありましたか。」「あなたは、学校で社会のルールや自己責任について学ぶ機会がありましたか。」については、共に平均 90 ポイントを示しており、人権感覚や規範意識が醸成されてきていると評価できます。



観点 3「あなたは、体験学習の時間が楽しいですか。」については、年毎に生徒の満足度は高まっています。1 年生では茶筌作り体験･筆づくり体験･先端大理科特別授業、2 年生では職場体験･沖縄料理体験、3 年生では修学旅行でのエイサーの体験･シュノーケル体験の他、救命救急法講習･三線講習･保育体験など、様々な活動を地域の方々の支援を得て実施することができました。

保護者アンケート考察

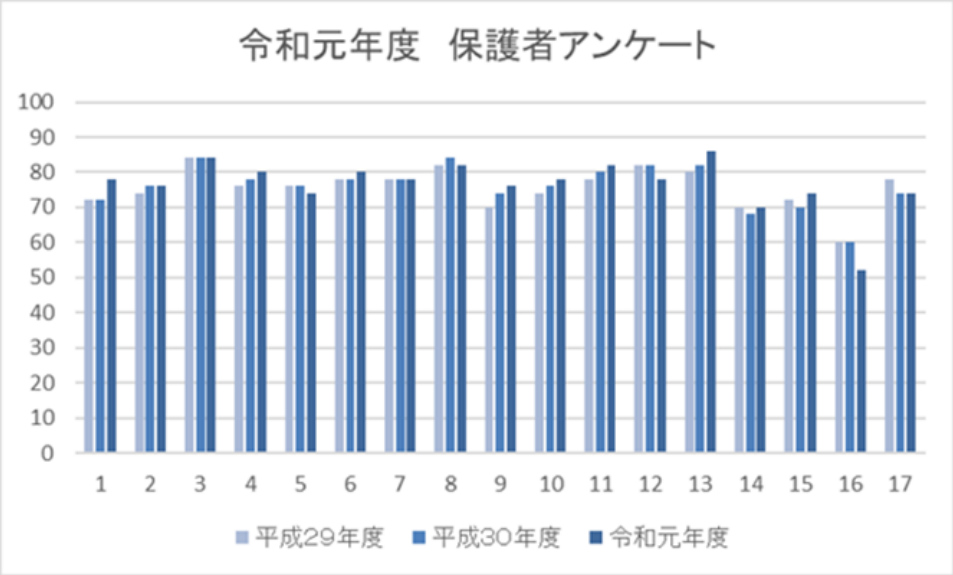
令和元年度　保護者アンケート

・経年変化（H29～R1）の数値は、観点指標をそれぞれ　A：当てはまる（5点）　B：どちらかといえば当てはまる（4点）　C：どちらともいえない（3点）　D：あまり当てはまらない（2点）　E:当てはまらない（1点）とし、それぞれの観点項目の平均値を百分率で示しています。

No	観　　点	経年比較		
		H29	H30	R1
1	学校は、教育方針等を分かりやすく伝えている。	72	72	78
2	学校は、子どもや保護者の願いに応えようとしている。	74	76	76
3	学校は、子どもの安全指導に努めている。	84	84	84
4	学校は、家庭との連絡をきめ細かく行っている。	76	78	80
5	学校は、子どもの悩みや相談について適切に関わってくれる。	76	76	74
6	学校は、子どもの間違った行動を適切に指導するなど、社会のルールを守る態度を育てている。	78	78	80
7	学校は、人権や命を大切にする取組を行っている。	78	78	78
8	学校は、環境美化や環境整備に努めている。	82	84	82
9	先生は、楽しく分かりやすい授業をしている。	70	74	76
10	学校行事等では、充実した活動が行われている。	74	76	78
11	保護者会の時期や回数は適当である。	78	80	82
12	子どもは、学校に行くのが楽しいと言っている。	82	82	78
13	子どもは、生徒会活動、学校行事や部活動に積極的に参加している。	80	82	86
14	子どもは、家庭でもよく学習している。	70	68	70
15	子どもは、学校での出来事等の話をよくする。	72	70	74
16	子どもは、よく読書をしている。	60	60	52
17	子どものスマホやインターネット等の使用には、家庭のルールを設けている。	78	74	74

観点 1「学校は、教育方針等を分かりやすく伝えている。」については、学年・学校だより等の紙面による定期的なお知らせの他、学校ホームページ、保護者懇談会において様々な情報の提供に努めています。また、学校だよりについては各家庭だけでなく、地域に広く学校を知っていただけるよう各自治会で回覧しています。

観点 16「子どもは、よく読書をしている。」は、生徒アンケートと同様で低い結果となっており、本校の大きな課題といえます。学校では図書室利用の機会を増やすなどの手立てを検討し



ているところですが、子供のスマホ所有率が高くなり、家庭でスマホを使用する時間が増えていることを多くの保護者から聞く中で、観点 17 の「子どものスマホやインターネット等の使用には、家庭のルールを設けている。」という項目の重要性を感じます。また、観点 14「子どもは、家庭でもよく学習している。」は次に低い数値になっています。読書量は語彙力にも直結し、理解力や表現力へとつながります。中学生にとって家庭学習の習慣化は学力の向上に欠かせないものです。保護者の方の協力を得ながら、これらの時間確保に力を注いでいきたいと思います。

今後も、懇談会や学年・学校だより、学校 HP の内容の充実に努め、学校の取り組みや生徒の様子について、保護者の方々にも十分にご理解いただけるよう積極的に情報の発信を行っていき、学校への理解と協力を深めていけるよう努めます。

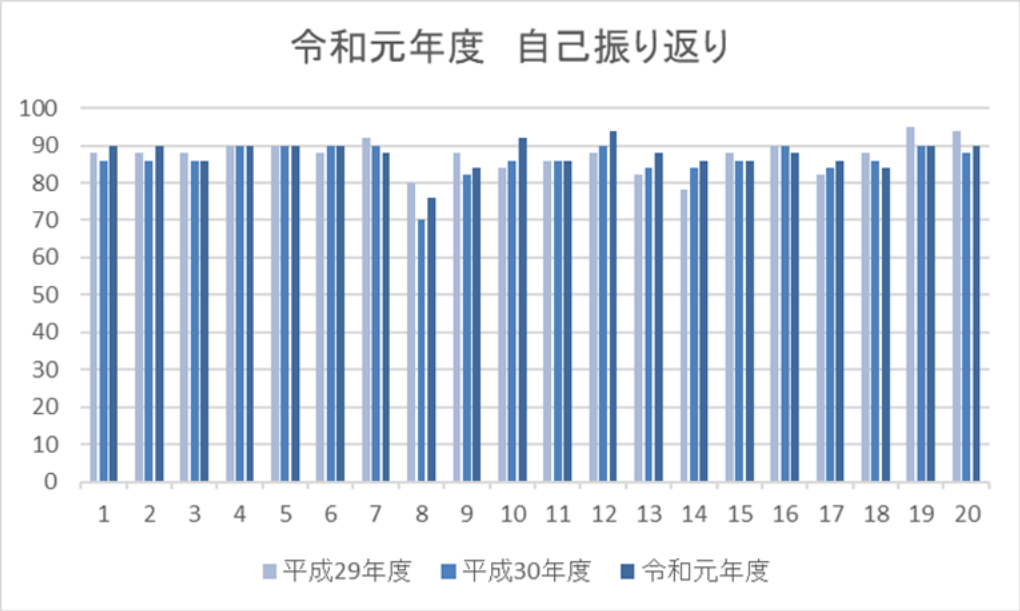
教職員アンケート考察

令和元年度　自己振り返り

・経年変化（H29～R1）の数値は、観点指標をそれぞれ A：当てはまる（5点） B：どちらかといえば当てはまる（4点） C：どちらともいえない（3点） D：あまり当てはまらない（2点） E：当てはまらない（1点）とし、それぞれの観点項目の平均値を百分率で示しています。

観点項目	No	観　　点	経年比較		
			H29	H30	R1
教育全般	1	学校教育目標は、生徒や地域の実態を踏まえたものとなっている。	88	86	90
	2	学校教育目標の達成に向けて、教育課程が編成され年間指導計画に基づいて指導が行われている。	88	86	90
基本方針	3	自ら考え行動し、未来を切り開く生徒の育成を目指した教育を推進している。	88	86	86
努力目標		**（1）自ら学ぶ意欲と態度を培う学習指導を推進する。（知）**			
	4	基礎・基本的な学習内容の定着を図り、楽しい授業を展開している。**（授業力向上への取組）**	90	90	90
	5	生徒の実態を的確に把握し、可能性を伸ばす指導に努めている。**（少人数指導・放課後自習教室等の推進）**	90	90	90
	6	体験的な学習・問題解決的な学習を取り入れ、主体的な学習活動を通して自ら学ぶ意欲と態度を育成している。**（体験学習・体験活動の充実）**	88	90	90
	7	学習過程での評価を通して、生徒の学習状況を把握し、その成果を学習指導に生かしている。**（指導と評価の一体化）**	92	90	88
		（2）豊かな心を育てる道徳教育・生徒指導を推進する。（徳）			
	8	教育活動全般を通して、実践力の伴う道徳教育を展開している。**（規範意識の育成）**	80	70	76
	9	あらゆる差別を許さない人権教育を展開している。**（なかまづくりを中心とした学校づくり）**	88	82	84
	10	望ましい生活習慣を身につけさせている。**（生徒指導の充実）**	84	86	92
	11	心の教育を推進している。	86	86	86
	12	カウンセリングマインドを基本に、未然防止の生徒指導に努めている。**（二者面談等の実施）**	88	90	94
		（3）健康な体とたくましい体力づくりを推進する。（体）			
	13	生徒の健康の現状を把握し、疾病の予防と健康で安全な生活を営む習慣や態度を培っている。**（保健指導の充実）**	82	84	88
	14	体育の授業だけでなく、進んで運動に親しみ、スポーツの楽しさと併せて体力の向上に努めている。**（部活動の推進）**	78	84	86
		（4）生徒ひとりひとりのために研鑽に励む。（教師）			
	15	教育専門職としての自覚のもと、絶えず自己研修に努めている。	88	86	86
	16	学校安全管理と環境美化に努め、美しい学校づくりに努めている。	90	90	88
	17	地域から信頼される開かれた学校づくりに努めている。	82	84	86
職員組織	18	校務分掌は適材適所の配置のもと、機能的に運営できている。	88	86	84
	19	職員間で意思疎通を図り、十分な連携がとられている。	95	90	90
	20	日々の教育活動における問題や悩み等について、気軽に相談できる雰囲気である。	94	88	90

観点 8「教育活動全般を通して、実践力の伴う道徳教育を展開している。（規範意識の育成）」については、昨年度に比べると若干の改善は見られるものの依然として全 20 項目の中でも最も低い状況です。本年度より道徳は「特別の教科道徳」となり、新たに指導計画や指導内容を形作



り実践してきたところですが、全国学力・学習状況調査（第３学年対象）の生徒質問紙調査「学校の規則を守っていますか。」に対して「はい」と答えた生徒は93.6%、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」に対して「はい」と答えた生徒は93.5%と高い数値ではあるが、全国平均や奈良県平均と比べると低い値であるのが事実です。今後の課題は、教科道徳の学習の定着に加えて様々な学校生活の場面において、望ましい道徳性と生活習慣を身につける取り組みを進めていきたいと思います。

　現在の教職員には、学習指導要領の改訂により指導内容や授業の在り方の見直しが求められ、働き方改革関連法により労働時間や業務内容の改善が求められ、教育情報化推進計画によりICT活用技能の熟練が求められ……、その他様々な課題が提示されています。その中で本校職員は、自己の取り組みを謙虚に反省しつつ、引き続きこれらの課題に真摯に向き合っていきたいと思います。

取り組みの概要と評価のまとめ

新しい中学校学習指導要領は令和 3 年度より全面実施となります。この改訂の基本的な考え方の中に「これまでの我が国の学校教育の実践や蓄積を活かし、子どもたちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成」とあります。これを受けて、本校では知識理解と技能習得の質を高め社会の中で生きる力を育んでいく学習活動を展開していくことを共通理解し、生駒北小中学校教育目標を、平成 30 年度から「自ら考え行動し、未来を切り開く児童・生徒の育成」と改訂し進めてきました。

確かな学力育成に向けて第一に挙げられるのは、一人ひとりに対するきめ細やかな指導を目指しての少人数指導体制です。本年度も 3 年生で少人数学級編制指導、2 年生で少人数教科指導の取り組みを実施しました。学習者からは、「疑問点にすぐ答えてくれることで、学習に集中でき、自信も持てるようになった。」「発言の回数が増え、積極的に授業に参加するようになった。」「班活動がしやすくなった。」などの声が上がっています。第二に、ICT 環境を活用した学習指導の工夫を教科間、指導者間で共有しています。学習者からは「映像があると興味がわく。」「イメージしやすい。」などとあり、意欲喚起や理解促進につながっているようです。第三に、「学びタイム」として設定した昼の帯取りの時間では、基礎知識習熟のための演習や新聞コラムの視写、図書室での読書活動などを実施し、定期考査前の放課後学習会では、学習者個々の課題解決に向け個別の支援を行うなどの取り組みにより基礎基本の定着を図りました。第四に、体験的な学習の取り組みとしては、地域の特性を活用し、茶筌作り・職場体験・伝統音楽三線教室・琴教室・救命法講習・奈良先端科学技術大学院大学での理科特別授業等の活動を実施しました。また、そのまとめ学習として ICT 機器を活用しての発表会やプレゼンテーションに取り組み、思考力・判断力・表現力の育成の一助としています。

次に、小中一貫教育校の特徴ある取り組みの一つとして、小中間の乗り入れ授業を実施しています。これは、主に中学校の各専門教科指導者が小学校に入り込み、授業や授業補助にあたるという形態のものですが、小学生が専門の教科指導者から授業を受けられるということだけでなく、指導者側にとっても小学校担任との連携が緊密なものとなり、教科の学習だけでなく生活面においても小中の接続に効果を見込んでいます。特に外国語や数学においては小学生が中学に進学してからの教育効果に期待するところです。また、学校行事については、運動会や文化発表会にとどまらず、入学式・始業式・終業式・避難訓練等多くの行事で小中児童・生徒が交流を図る場となることを意図して取り組んでいます。小学生は中学生の活動を見て学び、中学生はそれにふさわしい人格の成長を目指すことで、これらの行事はより効果的に相互に働くものとなってきています。

最後に、生徒の心と体の成長に関わっての支援としては、6 月と 11 月に各学級で二者面談を実施、また県費・市費で配置されたスクールカウンセラーを活用するなどして、生徒一人ひとりの心と体の健康状況の把握に努めました。今年度より、二者面談をより充実したものにするため、

この期間に特別校時を設定し時間の確保を図りました。また、体力の向上をめざして、体育の授業だけでなく部活動においても、学校 HP 上に公開している「活動方針」に沿って健康管理・安全管理における具体的措置を共通理解し学校体制で取り組む他、地域スポーツ人材活用事業により地域の指導者を招聘するなど活性化を図っています。